

2 0 2 3 年 度

事 業 報 告 書
事 業 別 事 業 活 動 計 算 書

社会福祉法人 溪 仁 会

2023年度 事業報告

施設名：西円山敬樹園

1. 総括

新型コロナウイルス感染症分類の「5類」への引き下げから1年が経過しました。2021年4月の大災害ともいえる集団感染は、想像以上に私たち職員にとって大きなダメージを残すこととなりました。感染対策緩和への動きが加速する中、未だ慎重な対応をとっている現状において、ご利用者をはじめご家族にもご迷惑をおかけしているところではございますが、この時間を無駄な時間と捉えずに、昨日よりも今日、昨年度よりも今年度というふうには、少しずつ元の日常を取り戻していく必要があると感じております。

2023年度におきましては、「安定経営」「人財の確保と成長」「業務改善」「地域との共生」の4項目を重点課題として取り組んでまいりました。経営面におきましては、下期に入り1日最大で23名もの入院者が発生してしまうといった状況から、嘱託医の不在も重なり、大変厳しい経営状況となりました。ほぼ同時期に退職者の増加に加え、特に介護職員の採用もまた困難を極めました。業務改善に至っては、施設の構造上などからもうまく活用されていないICT機器の現状を踏まえつつ、少しずつではありますが、新しい介護システムを応用しながら、紙媒体の削減等に向けての効果が現れてきました。地域への係わり方につきましては、積極的な活動は控える形となりましたが、町内会行事等の再開と参加を通して、長年にわたって築き上げてきた関係の再構築の第一歩となるきっかけとなりました。

閉鎖的にならざるを得なかったコロナ禍から脱却し、職員一人ひとりが、楽しく、幸せと感じていける施設づくりの実現に向けた新たなスタートといたします。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

○「経営改善会議」の開催

・開催頻度：毎月収支確定時に合わせて開催 ※主に特養

・活動状況

生活相談課（毎月の入退居、入院者数等）、健康管理課（入院者の状況、感染・看取り対応等）、生活支援課（職員の状況、業務改善内容等）、栄養管理課（委託先、食事内容等）、生活リハビリ課（加算取得、ICT関連等）について報告

・今後の展開

文字通り100%稼働に向けた稼働率向上と人材確保の同時進行を優先し、介護DXをベースとした積極的な業務改善に努めてまいります。

3. 職員状況（3月末現在）

○2024年3月31日職員状況【合計職員数142名】 ※2022年度末：154名

<特養・短期>【76名】※育児休業中2名

・管理者1名、医師1名（非）、看護職員10名（非2名）、介護職員45名（非13名）、生活相談員2名、

・介護支援専門員2名、理学療法士2名（非1名）、作業療法士1名、管理栄養士3名、施設管理4名、事務職員他5名

<訪問介護>【29名】

・サービス提供責任者5名（管理者兼務1名）、非常勤ヘルパー24名

<介護予防C>計4名】

・相談員4名（管理者兼務2名）

<小規模多機能>【10名】

・管理者1名、看護職員1名、介護支援専門員1名、介護職員7名

<グループホーム>【23名】

・計画作成担当者2名（管理者兼務1名）、看護職員1名（非）、介護職員20名（非1名）

○2023年度職員異動状況

・採用：16名（看護職員：3名、介護職員：12名、予防C：1名）

・退職：21名（看護職員：1名、介護職員：17名、予防C：1名、CM：1名、訪問介護：1名）

1年を通して「常勤（特に介護）職員の退職」が多く、その代替えとして「非常勤（介護）職員」の採用・応募が多い現状にあります。更に紹介（派遣）会社からの応募が圧倒的多数を占めており、派遣料及び紹介手数料の増加が懸念される。

4. 研修参加・実施状況

○外部研修（施設職員参加状況）：特養20回、訪問介護 3回、介護予防12回、小規模多機能 2回、GH 9回

○内部研修（施設職員参加状況）：特養17回、訪問介護12回、介護予防17回、小規模多機能 5回、GH15回

<特養>事故防止2回、感染予防2回、抑制廃止/高齢者虐待防止2回、褥瘡予防1回、緊急災害2回

<その他>新人職員研修3回、理念の浸透・運営方針1回、安全衛生1回、施設サービス計画1回、看取り研修1回、

ハラスメント研修1回、メンタルヘルス1回、心理的安全性1回

2023年度 事業報告

西円山敬樹園

【入所：定員123名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>44,286 人</u>	<u>42,355 人</u>
一日平均入所者数	<u>121.0 人</u>	<u>115.7 人</u>
入所待機者	42人（3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 4.0</u>	
協力医療機関	： <u>1. 札幌西円山病院</u>	

【短期入所生活介護：定員14名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>1,464 人</u>	<u>34 人</u>
一日平均入所者数	<u>4.0 人</u>	<u>0.1 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.14</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	<u>8,834 回</u>	<u>5,676 回</u>
（介護保険外）		<u>5,288 回</u>
一日平均利用回数（介護保険）	<u>28.2 回</u>	<u>18.4 回</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.4</u> （要支援1・2を除く）	

【介護予防センター】 (円山)

延相談件数 67 件

相談内容 (重複有)

介護保険制度：18 件
 権利擁護：0 件
 高齢者虐待：0 件
 介護予防：21 件
 その他：28 件 (認知症・心身の健康・住まい・保健福祉等)

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数 (延べ)
介護予防教室	<u>191</u> 回	<u>1,929</u> 人
(以下介護予防教室での実施内容内訳。重複有)		
転倒予防	<u>166</u> 回	
栄養改善	<u>5</u> 回	
口腔機能向上	<u>65</u> 回	
閉じこもり予防	<u>6</u> 回	
認知症予防	<u>137</u> 回	
疾病予防	<u>4</u> 回	
その他の介護予防	<u>30</u> 回 (うつ予防、体力測定等)	
研修会・講演会・相談会	<u>28</u> 回	<u>206</u> 人
その他	<u>6</u> 回	<u>80</u> 人
広報物発行	<u>12</u> 回	<u>4,153</u> 部

【介護予防センター】 (曙・幌西)

延相談件数 23 件

相談内容 (重複有)

介護保険制度：2 件
 権利擁護：0 件
 高齢者虐待：0 件
 介護予防：12 件
 その他：22 件 (心身の健康・保健福祉等)

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数 (延べ)
介護予防教室	<u>109</u> 回	<u>1,897</u> 人
(以下介護予防教室での実施内容内訳。重複有)		
転倒予防	<u>99</u> 回	
栄養改善	<u>3</u> 回	
口腔機能向上	<u>62</u> 回	
閉じこもり予防	<u>0</u> 回	
認知症予防	<u>58</u> 回	
疾病予防	<u>4</u> 回	
その他の介護予防	<u>10</u> 回 (体力測定等)	
研修会・講演会・相談会	<u>8</u> 回	<u>103</u> 人
その他	<u>3</u> 回	<u>6</u> 人
広報物発行	<u>8</u> 回	<u>2,141</u> 部

2023年度 事業報告

西円山の丘

【グループホーム：定員27名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>9,767 人</u>	<u>9,363 人</u>
一日平均入所者数	<u>26.7 人</u>	<u>25.6 人</u>
入所待機者	<u>12 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.36</u>	
協力医療機関	： <u>1. 札幌西円山病院</u>	

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員18名（通い定員9名、宿泊3名）】

	目 標	実 績
延登録者数	<u>8,968 人</u>	<u>5,902 人</u>
※延通い利用者数		<u>2,284 人</u>
※延宿泊数		<u>246 人</u>
※延訪問数		<u>2,727 人</u>
一日平均登録者数	<u>24.5 人</u>	<u>16.1 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.7</u>	

2023年度 事業報告

施設名：月寒あさがおの郷

1. 総括

2023年度においては新型コロナウイルス感染症の影響で運営課題となっていた短期入所4床を年度初めより入所へ転換（入所84名・ショートステイ4名）。同感染症の分類が5月より「5類」に移行され、基本的な感染予防策の継続およびWITHコロナの生活を世の中の空気感を読みながら、原点回帰し当施設のあるべき姿の実現に向け各事業の着実な推進に向け努めてきた。しかし、今年度においてもコロナをはじめインフルエンザによる就業停止や下半期には感染性胃腸炎による集団感染が発生するなど感染症対応に振り回される結果であった。また、職員の状況に合わせた柔軟な働き方や多様な人財登用、定着化への取組みを図るも離職の波を防ぎきれず、最低限の人員体制による限定的なサービス提供にとどまった。一方、経営面においてはこれらの影響もあり目標達成には至らなかったが予算外の補助金等収入により最低限の結果を残すことが出来た。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況> 施設運営会議（毎月第4火曜日 参加者：管理者・各部署責任者）毎月の経営状況における課題等について協議

○実績（延利用者数 等）

- ・特養：収益達成率93.4% 稼働率90.4% 新規31名、退居27名（うち看取り10名） 延入院日数895日
収益達成率▲1.9% 稼働率▲4.3% 看取り件数▲3件 延入院日数▲59日 ※前年度比
待機者減少、嘱託医の変更による入院者数増加、人財定着率低下、感染症発生など様々な要因が重なり厳しい結果となった。
- ・短期：収益達成率78.8% 稼働率52.5% 新規12名
収益達成率+45.5% 稼働率+20% ※前年度比
特養ユニット内併設のため、感染予防の受け入れ制限を徐々に緩和したことにより稼働率はコロナ禍以前に近い結果へ回復。
- ・通所：収益達成率96.2% 稼働率78.8% 新規51名、体験66名、中止36名 要介護度比率平均65.9%
収益達成率+13.9%稼働率▲0.1% 新規+29名、体験+32名、中止+5名 要介護度比率+1.8%※前年度比
コロナ禍以前の状況へ回復し始め、新規、体験も毎月複数名受入れたが、中止者も多く収益は回復も稼働率は前年とほぼ同等。

○加算取得（算定）状況

- ・各事業前年度と同様算定可能なLIFE関連加算等を算定

○費用

- ・人件費：介護職員の未補充分による減少（執行率90.8%）
- ・事業費・事務費：利用者数減に伴う食材費、水道光熱費は減少も外国籍職員をはじめ職員紹介手数料、修繕費用は増加となった。

<2024年度に向けて>

4月より協力医療機関変更による体制構築、介護報酬改定に伴う新設加算取得への取組み、各事業の目標達成に向けた体質改善、人財の確保と定着化、地域との関係性再構築など課題は山積しておりますが、一つひとつ丁寧に対応し解決して参ります。

3. 職員状況（3月末現在）

○2024年3月31日職員状況【合計職員数96名】

特養・短期：管理者1名、嘱託医1名、看護職員6名、介護職員48名（内非常勤8名、派遣7名※外国籍7名）、生活相談員2名、介護支援専門員1名、作業療法士1名、栄養士3名、事務職員4名（内施設管理員1名）、介護アシスタント8名

通所：管理者1名、生活相談員1名（介護職員兼務）、介護職員9名（内非常勤3名）、看護師3名（内非常勤2名）、運転手5名、介護アシスタント2名

○2023年度職員採用・退職等状況

採用：15名【介護職員12名（内通所2名）、管理栄養士2名、運転手1名】

退職：17名【介護職員13名（内通所1名）、介護アシスタント3名、管理栄養士1名】

異動：転入5名【管理者1名、介護職員3名、生活相談員1名】、転出1名【管理者1名】

産休：1名、育休：2名

4. 研修参加・実施状況

○内外研修参加・実施状況（法人本部・溪仁会グループ研修含む）：延参加者81名

外部研修：各階層別（新人・リーダー層 管理職等）、コミュニケーション、メンタルヘルス、ハラスメント、虐待防止、接遇、職業倫理、認知症実践者、ユニットケアリーダー等。

内部研修：法定の感染、虐待、事故、災害に関する内部研修。（前年に続き、市保健所の認定看護師による施設内感染対策研修）

その他外国籍職員受入に関して既存職員向け「やさしい日本語講座」実施。

○実習等受入実施状況

介護福祉士13名（札幌5名、せいとく5名、大原2名、西野1名）、管理栄養士1名（光塩短大）、看護師2名（医療大）、

作業療法士2名（医療大）、その他14名（あずみ7名、サンシャイン3名、豊明高等支援1名、社協職場体験2名、札幌市生活困窮就労訓練1名）、フィールドスタディ15名（平岡高校）等

※今後の新規採用を念頭に積極的な受入に努めて対応した。

2023年度 事業報告

月寒あさがおの郷

【入所：定員84名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>30,152 人</u>	<u>27,779 人</u>
一日平均入所者数	<u>82.4 人</u>	<u>75.9 人</u>
入所待機者	<u>17 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 3.87</u>	
協力医療機関	: <u>1. 勤医協月寒ファミリークリニック</u> <u>2. 定山溪病院</u> <u>3. 大谷地病院 ※精神科医師療養指導あり</u>	

【短期入所生活介護：定員4名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>907 人</u>	<u>768 人</u>
一日平均入所者数	<u>2.5 人</u>	<u>2.1 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.2</u> (要支援1・2を除く)	

【通所介護：一般型35名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>7,293 人</u>	<u>7,008 人</u>
一日平均利用者数	<u>28.7 人</u>	<u>27.6 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 1.7</u> (要支援1・2を除く)	

2023年度 事業報告

施設名： 岩内ふれ愛の郷

1. 総括

新型コロナウイルスが5類感染症に移行したが利用者・家族に大変迷惑・不便をお掛けした1年であった。特に1月上旬に入居者48名（SS6名含）、職員13名、合計61名が新型コロナウイルスに感染した。その期間にコロナ関連で入居者6名それ以外に3名、計9名が入院し5名の方がお亡くなりになった。

職員確保についても介護職員不足が深刻であるため新たに「技能実習生」2名を採用し「特定技能」4名を含め外国籍人財6名が勤務。また、理学療法士1名を採用する事ができた。2024年度以降も、コミュニティホーム岩内と連携し職員異動及び採用を継続して実施していく。転倒・転落事故が上半期件数多く利用者・家族に不安等を与えてしまった。下半期より事例を基に事故防止研修会等を実施し事故件数が減少した。引き続き効果的な感染予防対策、離職防止対策・業務見直し等を推進していきたい。

1. 入所においては一日平均入所者数48.7名と目標数を達成する事ができなかった。
2. 短期入所生活介護に関しても一日平均入所者数8.39名で目標数を達成する事ができなかったが、今後も老健・居宅（さつき）との連携を図りサービス提供をしていきたい。
3. 家族や地域との交流が出来ていない。2019年から実施している「ふれあいカフェ（認知症カフェ）」等2024年度は定期的の実施し交流を深めていきたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

1. コミュニティホーム岩内と合同で実施している「岩内コミュニティの丘運営会議」「プロジェクト会議」を月1回開催し検討課題等を情報共有することで透明性の保持や可視化することができている。
2. 岩内ふれ愛の郷単独で役職者会議・職員全体会議を月1回実施。職員会議では、現場での検討課題を中心に議論。

<成果>

- ・ 定期的に短期入所生活介護を利用させていただくよう対応できた。
- ・ 一体経営に向けてふれ愛・コミ岩の職員異動等も昨年より効率的に実施できた。
- ・ 加算算定状況や人件費率及び利益率などの目標数値の達成度確認等、全職員に周知が図れた。

<今後の課題>

- ・ 長期にわたり人材不足が続いていることは喫緊の課題である。効果的な募集・離職防止対策等を推進していきたい。
- ・ 介護ロボット（aams・インカム）についての使用状況、導入効果の検証をしっかりと実施していきたい。
- ・ 感染症含め、自然災害・介護事故におけるリスク管理・BCP等研修の充実を図っていきたい。

3. 職員状況（3月末現在）

○2024年3月31日職員状況

管理者	: 1名	医師	: 1名（非 1名）	介護職員	: 23名（非 5名）
相談職員	: 2名	介護支援専門員	: 2名（非 1名）	看護職員	: 5名（非 2名）
事務職員	: 4名（非 1名）	管理栄養士	: 1名	理学療法士	: 1名
介護補助	: 9名（非 9名）	日直・運転職員	: 3名（非 3名）	合計	: 52名（非22名）

○2023年度職員採用・退職等状況（施設外転出者含む）

採用	: 13名【介護職員：10名 看護職員：1名 理学療法士：1名 事務職員：1名】
転入	: 1名【介護職員：1名（コミ岩内）】
転出	: 5名【介護職員：4名（コミ岩内） 介護支援専門員：1名（コミ八雲）】
退職	: 7名【介護職員：6名 看護職員：1名】

4. 研修参加・実施状況

○外部研修参加状況（溪仁会グループ・キャリア支援主催研修含）

延参加者数27名（2022年度28名より1名減）

認知症介護者研修（Web）、感染症研修（岩内保健所）、口腔ケア・排泄ケア研修（Web）、その他溪仁会グループ主催研修会、その他法人本部研修

○施設内研修開催回数11回（2022年度より回数増）

フィードバック（虐待予防）研修、リスクマネジメント研修、嘔吐物（感染予防）処理研修、防災研修、看取り研修、接遇研修、感染対策研修、虐待防止研修、BCP感染研修、事例検討会、その他

○岩内コミュニティの丘合同研修開催回数14回

介護現場におけるリスクマネジメント研修、老健在宅強化型に向けて、オムツのあて方研修、その他

2023年度 事業報告

岩内ふれ愛の郷

【入所：定員50名】

	目 標	実 績
延入所人数	<u>18,300 人</u>	<u>17,808 人</u>
一日平均入所者数	<u>50.0 人</u>	<u>48.7 人</u>
入所待機者	1 人 (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 4.30</u>	
協力医療機関	: <u>1. 指定管理者 医療法人溪仁会 泊村茅沼診療所</u>	
	: <u>2. 岩内協会病院</u>	
	: <u>3. にしざき歯科医院</u>	

【短期入所生活介護：定員10名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>3,481 人</u>	<u>3,071人</u>
一日平均入所者数	<u>9.5 人</u>	<u>8.4 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.76 (要支援1・2を除く)</u>	

2023年度 事業報告

施設名：きもべつ喜らめきの郷・るすつ銀河の杜

1. 総括

入所部門においては、きもべつ喜らめきの郷は、入所定員80名で1日平均利用者数は上半期72.6名、下半期69.4名、年間70.9名、るすつ銀河の杜は、入所定員29名で1日平均利用者数は上半期28.1名、下半期26.5名、年間27.3名と2施設とも目標未達であった。特に、喜らめきの郷においては新型コロナウイルス感染症のクラスター発生により多数の入院、体調悪化が発生しクラスター収束後も継続的な看取り、入院（退居）が発生した。新規入所については、喜らめきの郷21名、銀河の杜7名の新規入居者を受け入れたが昨年度の実績には若干及ばなかった。待機者確保については昨年度以上に営業対象地域を拡大したが、今後は札幌市内等より広域的な地域への広報活動等が必要となってくる。喜茂別町立クリニック医師（嘱託医）の週末不在により嘱託医以外の医師と契約を結び対応をしなければならない状況が続いており費用面の他、病状不安定の入居者の受入れが困難で課題の一つになっている。職員採用については、主に外国籍職員を受け入れることである程度人員不足をカバーできる体制が整いつつある。退職者も減少傾向にありようやく計画的な人員計画が立てられる状態となってきた。次年度は外国籍職員の採用を継続するとともに、給与規程改定を機とした地域の高等学校新卒者採用に注力し中長期的な採用に繋げていきたい。3月末現在、技能実習生6名、特定技能職員10名、合計16名の外国籍職員が在籍しており、採用時期にもよるが約8割が一人で勤務ができる体制となっており、今では外国籍職員が欠かせない戦力になっている。今後は、長期的な勤務ができる環境づくりを充実させ安定的な人員体制につなげていきたい。次年度においては、銀河の杜の短期入所も検討、喜らめきの郷、銀河の杜合わせた109床をより積極的に調整し稼働率100%を目指していく。

在宅部門においては、居宅介護支援は、地域ニーズが継続しており安定的な実績となり予算も達成している。デイサービスは下半期実績が低迷したが、デイサービスを通じて銀河の杜入所が円滑化している背景もあり、今後もこの体制は維持していく必要がある。また訪問介護は、担い手がおらずほぼ職員1人での業務になっており、在宅部門も慢性的な人手不足に変化はない。短期入所は、羊蹄山ろくの広範囲から申し込みが続いており昨年を上回る実績となった。

地域活動においては、昨年同様コロナの影響でほとんど実施することができなかったが、喜茂別町の委託事業（介護予防）に関しては予定通り実施できている。

ICT化においては、ソフト（ほのぼの）導入後、データ管理、業務連絡にも使用する等より業務改善が図られている。

面会・行事においては、新型コロナの第5類移行に伴い面会制限を徐々に緩和し、個室面会も再開し施設行事も活発に実施されるようになってきており、次年度以降もより満足度の高いサービスの提供に繋げていきたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

・毎月第4水曜日（16：30～）開催。 ※施設運営会議にて検討中。

1) 効率的な人員配置と業務改善

・経過記録音声入力、インカムの積極的活用 ・委員会、会議開催時期の見直しによる効率化

2) 各種加算の算定（両施設）

・LIFEに関する加算の算定 ・看取り介護加算（きもべつ8名、るすつ3名）算定

3) 費用等の見直し

・電気料金値上げに伴う節電対策

4) その他

・人財確保策として、外国籍職員に重点を置いた採用計画と支援環境拡充

3. 職員状況（3月末現在）

○2024年3月31日職員状況 総職員数102名（非16名）【きもべつ71名、るすつ31名】

医師3名（非3名）、看護職員9名（非1名）、介護職員69名（非10名）、介護支援専門員2名

生活相談員6名、管理栄養士1名、訪問介護員2名、事務職員他10名（非2名）

○2023年度職員異動状況

採用：15名【介護職員12名（正1名、契9名、非2名）、看護職員1名（正1名）、事務職員2名（正1名、非1名）】

退職：10名【介護職員 8名（正2名、契5名、非1名）、看護職員1名（正1名）、管理栄養士1名（正1名）】

4. 研修参加・実施状況

○内部研修参加回数：5回延208名参加

リスクマネジメント、感染対策、交通安全、事故防止、褥瘡ケア、虐待防止、接遇等

○外部研修参加回数：きもべつ10回延19名参加、るすつ8回延8名参加

認知症介護実践者研修、介護職員実務者研修、技能実習責任者講習、後志老協研修、溪仁会グループ及び本部主催研修等

○今後も各委員会を中心に活動のレベルアップと積極的オンラインでの研修の受講

2023年度 事業報告

きもべつ喜らめきの郷

【入所：定員80名（短期入所込み）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>28,728 人</u>	<u>25,950 人</u>
一日平均入所者数	<u>78.5 人</u>	<u>70.9 人</u>
入所待機者	<u>3 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 3.16</u>	
協力医療機関	： <u>1. 喜茂別町立クリニック</u>	
	<u>2. 定山溪病院</u>	
	<u>3. 洞爺温泉病院</u>	
	<u>4. 喜茂別歯科</u>	
	<u>5. ふじ歯科クリニック</u>	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	<u>612 回</u>	<u>110 回</u>
（総合事業）		<u>197 回</u>
（障がい）		<u>229 回</u>
（制度外）		<u>64 回</u>
一日平均利用回数（介護保険・総合事業）		<u>1.26回</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.00</u> （要支援1・2を除く）	

2023年度 事業報告

るすつ銀河の杜

【入所：定員29名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>10,435</u> 人	<u>10,001</u> 人
一日平均入所者数	<u>28.5</u> 人	<u>27.3</u> 人
入所待機者	1 人（3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 3.20</u>	
協力医療機関	： <u>1. 留寿都診療所</u>	
	<u>2. 定山溪病院</u>	
	<u>3. 洞爺温泉病院</u>	
	<u>4. 留寿都歯科診療所</u>	

【通所介護：地域密着型10名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>1,225</u> 人	<u>1,329</u> 人
一日平均利用者数	<u>5.0</u> 人	<u>5.5</u> 人
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.52</u> （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>745</u> 件	<u>569</u> 件
（うち介護予防）		<u>120</u> 件
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.71</u> （要支援1・2を除く）	

2023年度 事業報告

施設名：手稲つむぎの杜

1. 総括

●2023年度の総括

開設9年目を迎えた2023年度は、新型コロナが5類に移行した事を受けて、コロナ禍以前の日常を目指した施設運営と、法人経営基本方針である『経営の在り方』、『福祉人財の在り方』、『サービスの在り方』、『地域社会への在り方』『法人、施設の在るべき姿』に対し取り組んだ。

経営面においては、特養において、上期に発生したクラスターは経営、運営面共に大きな打撃を与えた。クラスター終息後よりご入居者の看取り件数が急増。また、水道光熱費、物価高騰による各種経費の値上げ等での支出も増加し、ブロック全体の収支差額は大きく乖離する結果となった。

人財においては、日頃から風通しの良い組織づくりや職員間の接遇意識向上等に取り組んできたが、今年度は前年度以上に離職者が多くブロック全体で慢性的な人員不足となった。前年度を上回る離職となったが、既卒、新卒者共に採用も順調に進め、年度末にはほぼ人員計画通りの配置が見込める事となった。

サービスにおいては、2022年度導入した介護ソフトの有効活用とペーパーレス化と業務の効率化を推進し、入所部門では一定程度の負担軽減がされてきた。次年度は在宅事業でも有効活用することが求められる。

地域においては、年度当初の計画通りとはならず、感染状況を勘案しながら一部、新たな取り組みを実施できたが限定的なものとなった。施設の在るべき姿は、「つむぎプロジェクト」で活発な意見交換を行うことができ、職員向けの取り組みをいくつか実施できた。次年度以降も法人未来プロジェクトとリンクしながら中長期的な運営を検討していきたい。

2024年度において経営、運営面での未達成項目の分析を十分行い年度計画の達成に向けて取り組んでいきたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況> 施設運営会議・つむぎプロジェクト会議・入所役職者会議（原則毎月第4金曜日）にて、課題の検証と対策を協議

○利用者の確保

入所：年間新規28名、退去32名（施設内看取り29名）、98.1%の稼働率であった。年間退去数の6割以上が上期に集中して看取りとなり、新規受入れの調整が間に合わず結果として稼働率の低下という結果となった。また8月のクラスター発生も大きく影響した。下期には退去数も比較的安定していた事や円滑に新規の調整ができた事で年間稼働率の改善に繋がった。

短期：年間新規63名、稼働率78.4%、通所介護併用利用者28% 認知通所併用利用者6.3%、居宅担当利用者31.7%。9月、コロナ陽性者発生により5日間の事業停止。下期には新規利用者数も順調に確保でき、ほぼ予算数値の達成となった。

通所：年間新規51名（体験利用者数の73%）、稼働率75.6%。感染予防対策、環境整備、業務改善を進めてきたが、職員の退職や、休職する職員発生等人員不足が長期間に渡った。また、その事によりレク等の活動も単調なものにせざるを得ない状況となり、ニーズに合わせた活動が提供できずに満足度も低い結果となった。

認知：年間新規6名、稼働率49.1%。新規利用者の獲得に苦慮した事や、利用回数の増回も十分対応できなかった事により予算を大きく下回った。利用者個々が重度化する中で、現状の人員配置でも稼働率改善とケアの質を維持する事が大きな課題となった。

小多機：年間新規14名、稼働率83.9%（登録定員29名）。年間を通じて職員欠員により十分な受入れ体制が整わなかったことや関係機関へのPR不足により稼働率の低下につながった。しかし、予算値を下回ったものの、事業単体としては黒字経営を維持できていた。

居宅：年間新規39名。年度当初は職員5名体制で開始するも、6月に1名退職し、その後補充までに時間を要し目標値の達成が困難な状況が数ヶ月続いた。また新年度の人事異動、事業所統合による影響もあり、年間予算は未達であった。

予防：市内感染状況を踏まえながら町内会との共催イベントを初開催し、またSNSを活用したフレイル予防の体操、教室実施等々にはあるがコロナ前の活動とコロナ禍で新たに始めた活動を融合させ、精力的な活動を行った。

○各種加算の算定

各事業前年度より算定の加算は継続。入所においては「褥瘡マネジメント加算（Ⅱ）」、「排せつ支援加算（Ⅰ）」、「栄養マネジメント強化加算」の算定を継続。通所においても「栄養アセスメント加算」、入所、通所において「ADL維持等加算Ⅱ」の算定継続し、単価維持に努めた。

○2024年度に向けて

介護報酬改定により、新設される加算の算定による単価の上昇、維持はもとより、職員の定着、物価高騰により上昇続ける経費の削減を意識した取り組みを行って参ります。

3. 職員状況（3月末現在）

○2024年3月31日現在 職員状況 施設合計：129名（常勤85名、非常勤40名、派遣4名）

<入所・短期>

- ・管理者1名、医師1名（非常勤1名）、看護7名（非常勤2名）、介護46名（非常勤6名、派遣4名）、
- ・介護補助5名（非常勤5名）、CM2名、PT1名、栄養2名、歯科1名（非常勤1名）、相談3名、事務8名
- ・事業所合計：76名（常勤57名、非常勤15名、派遣4名）

<通所・認知>

- ・管理者2名、看護4名（非常勤2名）、介護22名（非常勤12名）、OT1名、運転3名（非常勤3名）
- ・事業所合計：32名（常勤15名、非常勤17名）

<小多機>

- ・管理者1名、看護1名、介護12名（非常勤6名）介護補助1名（非常勤1名）
- ・事業所合計：15名（常勤8名、非常勤7名）

<居宅・予防>

- ・管理者2名、CM3名、相談1名
- ・事業所合計：6名（常勤6名）

○2023年度職員採用・退職等状況（※派遣職員除く）

- ・採用：33名【看護4名（入所3名、通所1名）、介護19名（入所11名、通所4名、小多機4名）、介護補助5名（入所3名、小多機2名）、相談3名（入所1名、居宅1名、予防1名）、事務他2名】
- ・退職：33名【看護4名（入所）、介護19名（入所13名、通所4名、小多機2名）、介護補助1名（入所1名）、相談8名（入所2名、居宅2名、障がい4名）事務他1名】
- ・転入：2名【施設ケア部長（札幌西円山病院より）、施設長（西円山敬樹園より）】
- ・転出：1名【施設長（月寒あさがおの郷へ）】

4. 研修参加・実施状況

○外部研修参加状況

<入所・短期>

【社福法人本部主催】※参加者数18名、延べ35名

- ・新人職員研修（8名）、新人フォローアップ研修（7名）、新任役職者研修（1名）、ハラスメント研修（2名）
- ・中間管理職スキルアップ研修①～⑤（1名）、コミュニケーション向上研修（1名）、新人職員研修（3名）
- ・接遇アドバイザー養成研修（1名）・働く女性の悩みと健康研究会（4人）、多職種合同研修会2023（1名）
- ・介護福祉士受験対策講座（1名）、ミドルシニア層研修会（2名）、管理職研修会（3名）

【溪仁会グループ主催】※参加者数13名、延べ15名

- ・年代別キャリアデザイン（1名）、評価者研修①（1名）、評価者研修②（1名）、評価者研修③（2名）、評価者研修④（3名）
- ・新任師長、課長研修（1名）、コミュニケーションスキル研修（2名）、幹部職員セミナー（4名）

【札幌市】

- ・結核研修（42名）

【北海道看護協会】

- ・看護実践における倫理の重要性を学ぶ（1名）、保健師助産師看護師実習指導者講習会（1名）

【道社協】

- ・北海道高齢者虐待防止推進研修会（4名）、高齢者の権利擁護を考える集い（2名）

<通所・認知>

【社福法人本部主催】※参加者数1名、延べ2名

- ・新人職員研修（1名）、新人フォローアップ研修（1名）

<居宅・予防>

【社福法人本部主催】※参加者数5名、延べ9名

- ・新人職員研修（1名）、新人フォローアップ研修（1名）、コミュニケーション向上研修（2名）
- ・ミドルシニア層研修会（1名）、新人フォローアップ研修（1名）、接遇アドバイザー養成研修（1名）
- ・幹部職員セミナー1（2名）

【溪仁会グループ主催】※参加者数1名、延べ1名

- ・評価者研修②（1名）

<小多機>

【社福法人本部主催】※参加者数2名、延べ2名

- ・新任役職者研修（1名）、中間管理職スキルアップ研修①～⑤（1名）

○内部研修実施状況

<入所・短期>

- ・感染対策研修会・訓練（89名）、感染対策研修会（食中毒）（40名）
- ・BCP研修・訓練（コロナウイルス感染症想定訓練・PPE着脱研修）7月、11月（2回）
- ・BCP研修・訓練（災害）6/29（9名）、10/24（10名）
- ・褥瘡予防研修会（70名）
- ・身体拘束・虐待防止研修会①<基礎編>（57名）
- ・身体拘束・虐待防止研修会②<不適切ケア>（47名）
- ・事故防止研修会<与薬>（46名）、事故防止研修会<転倒事故対策>（40名）
- ・看取り研修会（39名）

<通所>

- ・感染研修会・訓練（36名）、感染採用時（1名）
- ・BCP研修、訓練（10名）、災害（9名）、虐待研修会（15名）

<認知>

- ・感染研修会・訓練（6名）
- ・BCP研修、訓練（6名）、災害（6名）、虐待研修会（6名）

<居宅>

- ・感染研修会・訓練（4名）
- ・BCP研修・訓練（5名）、災害（5名）、虐待研修会（4名）
- ・採用時研修（1名）

<小多機>

- ・感染研修会・訓練（15名）、感染研修会（食中毒）（4名）、
- ・BCP研修、訓練（10名）、災害（9名）、虐待研修会（15名）

2023年度 事業報告

手稲つむぎの杜

【入所：定員80名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>28,914 人</u>	<u>28,720 人</u>
一日平均入所者数	<u>79.0 人</u>	<u>78.5 人</u>
入所待機者	<u>49 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 4.2</u>	
協力医療機関	: <u>1. 手稲溪仁会病院</u> <u>2. 手稲家庭医療クリニック</u> <u>3. 安永歯科</u>	

【短期入所生活介護：定員10名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>2,928 人</u>	<u>2,870 人</u>
一日平均入所者数	<u>8.0 人</u>	<u>7.8 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.6</u> (要支援1・2を除く)	

【通所介護：一般型65名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>12,982 人</u>	<u>12,202 人</u>
一日平均利用者数	<u>41.6 人</u>	<u>39.4 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 1.75</u> (要支援1・2を除く)	

【通所介護：認知症対応型12名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>2,320 人</u>	<u>1,822 人</u>
一日平均利用者数	<u>7.5 人</u>	<u>5.9 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.82</u> (要支援1・2を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数 (うち介護予防)	<u>1,622 件</u>	<u>1,378 件</u> <u>0 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.0</u>	
訪問調査件数		<u>53 件</u>

【介護予防センター】(まえだ)

延相談件数 63 件

相談内容(重複有)

介護保険制度：17 件
 権利擁護：1 件
 高齢者虐待：0 件
 介護予防：34 件
 その他：11 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u>85 回</u>	<u>1,281 人</u>
介護予防教室	<u>6 回</u>	<u>148 人</u>
転倒予防教室	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
認知症予防教室	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
研修会・講演会	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
その他	<u>24 回</u>	<u>307 人</u>

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員29名（通い定員15名、宿泊5名）】

	目 標	実 績
延登録者数	<u>9,516 人</u>	<u>8,904 人</u>
※延通い利用者数		<u>3,619 人</u>
※延宿泊数		<u>875 人</u>
※延訪問数		<u>3,608 人</u>
一日平均登録者数	<u>26 人</u>	<u>24.3 人</u>

要介護度状況 : 平均要介護度 1.9 (要支援1・2を除く)

2023年度 事業報告

施設名： 菊水こまちの郷

1. 総括

特養に関しては、上期病状に対する早期対応が功を奏し退居件数は3件に留まる（内看取り2件）。年末より看取り、急性期症状による入院退居が重なり一時アベレージを落とすが、年間アベレージも高値で安定していた。100%稼働は年間で1か月のみであった。1月に施設内でコロナ感染症が発生。新規の入居日時を延期する場面も発生した。また、7月に協力医療機関を変更。ホームケアクリニック麻生の協力により入院による退居が減少傾向である。（一日平均入居者数：2022年度28.4名、2023年度28.4名）

小規模多機能型居宅介護は、低アベレージ、長期連泊の受け入れ制限により減収。加えて人財難により長期連泊の再開ができず年間を通して苦しい経営となった。営業活動や経営改善に向けた検討を続けアベレージの上昇を目指すとともに、長期連泊の再開により顧客単価の上昇を目指している。（年間アベレージ：2022年度24.4名、2023年度25.3名）

サテライト型小規模多機能ホームるびなすについては、柔軟なサービス提供により定期的に他事業所より新規紹介を受け安定した収益を得ることができた。今後も長く在宅生活が続けられるよう、個別の対応に特化した運営を目指す。

（年間アベレージ：2022年度15.3名、2023年度15.7名）

2024年度稼働率100%達成の為、全事業所安定した待機の確保とともに、ご利用後入院の少なくなるよう医療機関との連携を目指す。

修繕について予算比+1, 503千円。エアコン室外機の他、混合水栓等小さな修繕が重なった結果である。計画的な修繕を行っていく。

事故（5件）・苦情（1件）に関して、事故については誤薬事故4件、転倒事故1件であった。昨年度に比べ減少。a a m s 設置によるリスク判定の効果に加え、ご利用者の長期利用による介護度の変化が原因とみられる。a a m s の活用継続とあらたな介護ロボット検討により事故のさらなる減少と職員の働きやすさを両立して検討していく。

人財確保について求人誌等での入職は2件と昨年度より減少。求人誌以外の方法についても幅広く検討していく。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>：毎月第3月曜日（14：00～）開催

1) 各事業所稼働率向上について 2) 職員募集・新人介護職員教育等について（離職防止も含め） 3) 感染症対策 4) 接遇 5) その他
<成果>

1) 特養については、ご利用者に対し病状の管理、ケアの質の向上を検討。それによるアベレージの安定。小規模については、アベレージの改善・平均介護度上昇による単価上昇を1年間かけて検討。それに伴い営業先の新規開拓により黒字転換を目指した。

2) 定期的にマニュアルを見直して、新人介護職員の勉強会等で使用。個人面談の回数を増やし業務内での不安や悩み等確認できた。

3) 施設内感染症対策については、感染委員会と連携し感染予防の方針を決定し、啓蒙活動を実施。また、ミーティングや会議、研修について開催基準や開催方法の見直しを行なった。

4) 接遇については、マニュアルの啓蒙や改善点の報告等を行なった。

5) 事故ゼロに向け、事例検討やマニュアルの改訂に努めた。また、感染予防のためオンラインでの会議・MTの流れ等、取り組みを検討。また、見守りセンサー導入に伴い動画検証を今後使用していく。

<今後の展開>

小規模多機能型居宅介護、るびなすについては連携を密に行い、安定経営を目指す。また、入居に関しては中重度要介護者・認知症高齢者の受入が基本となる。そのためにも専門性の向上と業務の効率化を図っていききたい。施設全体としては新規加算獲得に向け、日頃のケアから見直し、今後の展開を検討していきたい。

3. 職員状況（3月末現在）

○2024年3月31日職員状況

医師1名（非常勤）、看護職員4名、介護職員39名（非常勤6名、派遣2名）、生活相談員1名、管理栄養士1名、介護支援専門員3名、リハビリ1名（非常勤）、事務職員他5名（非常勤3名）、合計54名（非常勤10名、派遣2名、産休1名、育休2名）

○2023年度職員異動状況

採用7名【介護職員7名（常勤3名、非常勤2名、派遣2名）】

退職7名【介護職員4名（常勤2名、非常勤2名）・看護職員1名・管理栄養士1名・リハビリ1名】

4. 研修参加・実施状況

○内部研修実施回数：15回

接遇、リスクマネジメント、認知症の理解、緊急時対応、感染対策、交通安全、事故防止、褥瘡ケア、虐待防止、看取りケア 他

○外部研修実施回数：11回、延13名参加

新入職員研修、セルフケア、感染予防研修、介護支援専門員更新研修、リーダー交流研修、新入職員フォローアップ研修、メンタルヘルス 他

○2024年度も各委員会を中心に活動のレベルアップと積極的な外部研修参加の機会を作っていく。

内部研修では感染状況が落ち着き次第、グループ等の協力を得て外部講師を多く依頼しての研修を実施していきたい。

2023年度 事業報告

菊水こまちの郷

【入所：定員29名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>10,506 人</u>	<u>10,383 人</u>
一日平均入所者数	<u>28.7 人</u>	<u>28.4 人</u>
入所待機者	<u>5 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 4.14</u>	
協力医療機関	: <u>1. ホームケアクリニック麻生</u> <u>2. 白石中央病院</u> <u>3. 札幌歯科口腔外科クリニック</u>	

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員29名（通い定員18名、宿泊6名）】

	目 標	実 績
延登録者数	<u>10,506 人</u>	<u>9,273 人</u>
※延通い利用者数		<u>3,198 人</u>
※延宿泊数		<u>238 人</u>
※延訪問数		<u>6,111 人</u>
一日平均登録者数	<u>28.7 人</u>	<u>25.3 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 1.77</u>	

【小規模多機能ホームるびなす：登録者定員18名（通い定員9名、宿泊3名）】

	目 標	実 績
延登録者数	<u>6,480 人</u>	<u>5,759 人</u>
※延通い利用者数		<u>1,276 人</u>
※延宿泊数		<u>3 人</u>
※延訪問数		<u>2,974 人</u>
一日平均登録者数	<u>17.7 人</u>	<u>15.7 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.31</u>	

2023年度 事業報告

施設名： カームヒル西円山

1. 総括

特定入居者生活介護登録者は、アベレージ44.3名（目標46名）、一日平均入所者数は98.9名（目標100名）、平均介護度は1.0であった。特に下期に入院者が多く、収支は厳しいものとなった。

入居者の高齢化、介護度の上昇に伴い、入院・退去者の増加傾向は継続するため札幌西円山病院との連携強化、地域包括などへの広報などで早めの入退所調整、介護予防活動を取り入れ入居期間の延長化が必須となる。

職員については、非常勤職員の退職者が1名いた。また、職場環境については、職員が楽しいと思える職場づくりをこころがけ、施設内行事や職員企画などを充実させてきた。

ICT化については、ソフト導入後、定着やさらなる深化をめざして他施設の情報交換などを行った。

地域活動については、医療法人溪仁会との「まるやまカー助の会」の活動（職員のプロボノ）を継続し、地域の神社を活用した神社カフェの開催を地域と一緒に定期開催でき、地域共生を掲げ、地域とつながるカームヒルの土台ができた。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

役職者会議 月1回開催

参加メンバー：施設長、経営管理課長、介護課長、相談主任、介護主任、介護副主任、看護副主任、経営管理主任

内容：一般・特定の在籍数や月ごとの経費執行状況について報告・協議。その後の職員会議でも実績報告を行う。

<成果>

経営状況を役職者で共有でき、一般から特定への変更や住み替えの相談など、経営状況を意識した入居者調整が出来ている。

<今後の展開>

経営を意識した運営を継続するため、介護報酬での収支を常に確認していく。入退院や住み替えを減らしていくため、閉じこもり・介護予防活動を強化していく。また、札幌西円山病院との連携を強化し、リハビリや看護も含めた入退院調整の強化を図る。

電気代高騰による経費増加を防ぐための館内の節電については、床暖房の不必要時のOFFの徹底を図る。

3. 職員状況（3月末現在）

○2024年3月31日職員状況

管理者：1名、看護職員：2名、介護職員：14名、相談職員：3名、事務職員：1名、合計：21名

○2023年度職員採用・退職等状況

退職⇒1名

採用⇒0名

異動⇒1名

4. 研修参加・実施状況

○参加：29回 参加者：延111名

外部研修：老人福祉施設協議会・全国軽費老人ホーム協議会・北海道社会福祉協議会等

内部研修：高齢者虐待防止研修、感染症対策研修、事故防止対策研修、施設内認知症勉強会等

2023年度 事業報告

カームヒル西円山

【入所：定員100名（特定施設含む）】

	目 標	実 績
延入所者数 （うち特定入居者）	<u>36,600</u> 人	<u>36,190</u> 人 <u>16,197</u> 人
一日平均入所者数 （うち特定入居者）	<u>100</u> 人	<u>98.9</u> 人 <u>44.3</u> 人

入所待機者（3月末現在）個人：86 人 夫婦：8 人 うち特定：19 人
（要支援1・2を含む）

要介護度状況： 平均要介護度 1.0（要支援1・2を含む）

協力医療機関：1. 札幌西円山病院

2023年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム白石

1. 総括

2023年度は、介護老人保健施設、グループホーム、短期入所生活介護でコロナ陽性者発生により、入退所の制限など余儀なくされ、目標稼働率は達成出来なかった。ただ、以前のように感染対策療養対応するだけでは利用者の心身状態が悪化するため、陽性となってもADLが維持出来るよう考え方を変え、対応するよう方針転換している。

介護老人保健施設では家族からの要望などあり、年度途中より予約なしの面会を再開している。感染症のリスクがあるが、それ以上に課題となったのが、接遇の低下が浮き彫りとなった。家族からの苦情が増えたが対話をどのようにしたら良いかなど初歩的な不安を要している職員もおり、次年度は接遇の強化がさらに必要である。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

開催日：毎月1回、第3月曜日に定例開催。

参加者：施設長、経営管理部長、施設ケア部長、リハビリテーション部長、経営管理部次長、施設管理課長、支援相談課長代理の7名。

内容：利用稼働率（老健入所、通所）の確認

超強化型算定への協議（在宅復帰率、ベッド回転率、他算定要件の確認）

新規加算の算定に向けた検討

BSCアクションプラン実施に向けた検討

その他運営上の課題について協議

<成果>

1 2023年度BSCにおけるアクションプランの実施をリードした。

2 BCP策定の先導

3 各事業の運営の適正化の検証

<今後の展開>

経営改善プロジェクト会議は、これまで通り白石の運営方針策定やBSC運用に際して重要な位置付けとなる。

ブロック全体の将来的な展望も視野に入れ、各課題を共有、協議し運営会議に繋げ所属長合意のもと事業運営を行っていく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2024年3月31日職員状況

医師 2名、看護職員17名、介護職員85名、相談職員31名、介護支援専門員 8名、療法士18名

管理栄養士 2名、歯科衛生士 1名、薬剤師 1名、事務職員他19名、介護助手15名、非常勤ヘルパー 8名

合計 207名（産前産後休業・育児休業4名、育児短時間勤務1名）

○2023年度職員異動状況

採用：25名（看護職員2名、介護職員12名、療法士2名、事務職員他9名）

退職：24名（看護職員3名、介護職員13名、療法士3名、事務職員他5名）

転入： 1名

転出： 3名

4. 研修参加・実施状況

○溪仁会グループ本部主催研修会：延36名参加

○社会福祉法人本部主催研修会：延54名参加

○外部研修：延91名参加

○内部研修（全体研修）：新入職員研修会3名参加

○研究発表会

・溪仁会グループ研究発表会 白石ブロックから12演題発表

・ケアの質向上委員会（介護、看護） 14演題発表

・上記以外の事業所（相談、在宅事業） 11演題発表

2024年度は合同での優秀演題発表会開催を協議していく

○その他、部署毎に研修計画を作成し部内研修会及び伝達講習会を実施

2023年度 事業報告

コミュニティホーム白石

【入所：定員100名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>35,868 人</u>	<u>35,190 人</u>
一日平均入所者数	<u>98.0 人</u>	<u>96.1 人</u>
入所待機者	<u>15 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 3.2</u> （短期療養除く）	
協力医療機関	： <u>1. 札幌西円山病院</u>	
	<u>2. 白石中央病院</u>	
	<u>3. 札幌ひばりが丘病院</u>	
	<u>4. 東札幌病院</u>	

【通所リハビリテーション：定員55名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>10,026 人</u>	<u>9,827 人</u>
一日平均利用者数	<u>41.1 人</u>	<u>40.3 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.7</u> （要支援1・2を除く）	

【短期入所生活介護：定員19名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>6,050 人</u>	<u>6,195 人</u>
一日平均入所者数	<u>16.5 人</u>	<u>16.9 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.4</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	<u>3, 5 9 8 回</u>	<u>3, 3 7 5 回</u>
（介護保険外）		<u>1 1 1 人</u>
一日平均利用回数（介護保険）	<u>1 1 . 6 回</u>	<u>1 0 . 5 回</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1 . 6</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問リハビリテーション】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	<u>6, 9 8 9 回</u>	<u>7, 3 8 6 回</u>
（介護保険外）		<u>0 回</u>
一日平均利用回数（介護保険）	<u>2 8 . 6 回</u>	<u>3 0 . 3 回</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2 . 5</u> （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>2, 2 8 0 件</u>	<u>2, 2 0 8 件</u>
（うち介護予防）		<u>7 6 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1 . 5</u> （要支援1・2を除く）	

【第1地域包括支援センター】

延相談件数	<u>1, 295</u> 件
相談内容（重複有）	
介護保険制度：	<u>1, 033</u> 件
権利擁護：	<u>22</u> 件
高齢者虐待：	<u>7</u> 件
介護予防：	<u>15</u> 件
その他の保健福祉サービス：	<u>11</u> 件
認知症に関すること：	<u>142</u> 件
消費者被害に関すること：	<u>0</u> 件
住まいに関すること：	<u>99</u> 件
心身の健康に関すること：	<u>28</u> 件
家族の疾病・障がいに関すること：	<u>9</u> 件
その他：	<u>99</u> 件

会議開催、参加等

	主 催	参 加
個別地域ケア会議	<u>13</u> 回	<u>0</u> 回
個別地域ケア会議の準備会	<u>13</u> 回	<u>0</u> 回
地区地域ケア会議	<u>2</u> 回	<u>0</u> 回
地区連絡会議	<u>3</u> 回	<u>0</u> 回
区地域ケア推進会議	<u>5</u> 回	<u>0</u> 回
区連絡会議	<u>5</u> 回	<u>0</u> 回
その他のケース検討会議	<u>0</u> 回	<u>7</u> 回
運営推進会議等	<u>0</u> 回	<u>74</u> 回
地区組織との連携	<u>2</u> 回	<u>7</u> 回
医療機関との連携	<u>0</u> 回	<u>1</u> 回
生活支援コーディネーターとの連携	<u>3</u> 回	<u>1</u> 回
その他関係機関との連携	<u>12</u> 回	<u>8</u> 回

新予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	再委託
要支援	<u>862</u> 件	<u>500</u> 件	<u>120</u> 件

【第3地域包括支援センター】

延相談件数 1,412 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：	<u>974</u> 件
介護予防：	<u>15</u> 件
権利擁護：	<u>33</u> 件
その他の保健福祉サービス：	<u>36</u> 件
消費者被害に関すること：	<u>6</u> 件
認知症に関すること：	<u>108</u> 件
住まいに関すること：	<u>135</u> 件
心身の健康に関すること：	<u>54</u> 件
高齢者の虐待に関すること：	<u>7</u> 件
家族の疾病・障がいに関すること：	<u>17</u> 件
医療に関すること：	<u>50</u> 件
処遇困難：	<u>88</u> 件
その他：	<u>345</u> 件

会議開催、参加等

	主 催	参 加
個別地域ケア会議	<u>14</u> 回	<u>0</u> 回
個別地域ケア会議の準備会	<u>22</u> 回	<u>0</u> 回
地区地域ケア会議	<u>2</u> 回	<u>0</u> 回
地区連絡会議	<u>6</u> 回	<u>0</u> 回
区地域ケア推進会議	<u>2</u> 回	<u>0</u> 回
区連絡会議	<u>3</u> 回	<u>0</u> 回
その他のケース検討会議	<u>8</u> 回	<u>1</u> 回
運営推進会議等	<u>0</u> 回	<u>43</u> 回
地区組織との連携	<u>19</u> 回	<u>51</u> 回
医療機関との連携	<u>0</u> 回	<u>0</u> 回
介護支援専門員連絡協議会	<u>7</u> 回	<u>0</u> 回
生活支援コーディネーターとの連携	<u>0</u> 回	<u>4</u> 回
その他関係機関との連携	<u>97</u> 回	<u>44</u> 回

予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	再委託
要支援	<u>777</u> 件	<u>912</u> 件	<u>340</u> 件

【介護予防センター（白石中央）】

延相談件数 77 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：63 件

権利擁護：0 件

高齢者虐待：0 件

介護予防：27 件

その他：40 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u>0</u> 回	<u>0</u> 人
介護予防教室	<u>140</u> 回	<u>1844</u> 人
転倒予防教室	<u>0</u> 回	<u>0</u> 人
認知症予防教室	<u>0</u> 回	<u>0</u> 人
研修会・講演会	<u>0</u> 回	<u>0</u> 人
その他	<u>17</u> 回	<u>19,373</u> 人

2023年度 事業報告

白石の郷

【グループホーム：定員18名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>6,516 人</u>	<u>6,444 人</u>
一日平均入所者数	<u>17.8 人</u>	<u>17.6 人</u>
入所待機者	<u>18 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.7</u>	
協力医療機関	: <u>1. よつばクリニック</u> <u>2. 札幌ピースデンタルクリニック</u> <u>3. 北郷皮膚科</u>	

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員29名（通い定員15名、宿泊5名）】

	目 標	実 績
延登録者数	<u>10,248 人</u>	<u>9,510 人</u>
※延通い利用者数		<u>3,656 人</u>
※延宿泊数		<u>483 人</u>
※延訪問数		<u>5,075 人</u>
一日平均登録者数	<u>28.0 人</u>	<u>26.0 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.1</u>	

2023年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム八雲

1. 総括

- 老健入所については、入院退所が多いためショートステイで空床補填しながら高稼働を維持していたが、8月下旬に新型コロナ感染者が発生したことで、ショートステイ利用者や在宅復帰予定者を感染拡大前に自宅へ帰宅していただく対応をした。反対に入所予定者は入所日を延期する対応をしたため在所者数が見る間に減少し8～9月の稼働を著しく低下させた。ただし終息後は早期に入所調整を重ね翌月以降は稼働を回復、さらには口腔ケアの強化をはじめとした健康管理が奏功し入院退所が徐々に低減。3月度には100%稼働も達成し上半期終了時点では年間目標の稼働率と乖離が大きかったが下半期で埋めていくことができた。
- 通所リハビリについては、利用が消極的だったコロナ禍を終え、社会的活動の再開に伴う利用増を期待した。特に久しく実施できなかった外出レク等を繰り返し実施し楽しく賑やかな通所リハの雰囲気に戻ってきたが、入院・入所による利用中止や当施設の空床補填のためのショートステイ利用にも多数が流れ、前年度のAVEを上回ることが出来なかった。
- 訪問介護については、サービス提供責任者が代わり新体制で年度がスタート。そのため前年度末には利用者数を意図的に少なくしていた。年間目標値の達成には至らなかったが徐々に利用者を回復させることが出来た。また、年度末に町内の他訪問介護事業所の閉鎖があったため問合せや新規相談が増加し、次年度の利用者が増加する見通しで終えている。
- 訪問リハビリについては、需要は感じつつも現況のスタッフでは入所・通所に注力され積極的な運営には至っていない。
- 居宅介護支援については、夏季に例年以上の件数を伸ばすことができ、冬季から年度末に落込みがあったものの年間目標は達成することが出来た。
- 5類移行に伴い基本的な考えも変わったが、コロナ感染を起因とする突如の欠員は少なくはない。とりわけ介護課は職員不足により止む無く休日出勤を要する現状に加え、さらに夜勤可能な職員も減少傾向で担い手が偏る課題が生じている。年度末には特定技能人材2名が約1年の勤務を経て夜勤可能となったが、今後も人材教育やHRMに重きを置いて課題解決に努める必要がある。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

- <活動状況>施設運営会議（毎月第4木曜日）において経営状況における課題等を協議
- コロナ禍により玄関ロビーに制限していた面会であったが、5類移行を見越して4月から居室面会を可能とした。社会的にも慎重な対策が当然だった風潮の中、いち早く緩和に踏み切った。その後もお盆の外出許可、年末年始の外泊許可と順に緩和を進めた。
 - これら制限により閉鎖的な施設環境がサービスの質や接遇の低下に繋がった可能性も否めないと感じていたが、緩和によって「見える化」が進み施設と家族の距離が縮まった。家族にとっても施設に対する懐疑的な心理が軽減され、また職員にとっても適度な緊張感が得られ、この数年かつ上半期まで多かった苦情が下半期に0件となった。
 - 洗濯物の取り扱いミスやショート退所時の忘れ物、その他様々な連絡もれ等のミスが絶えず、苦情や不満にも繋がっていたが、ミスを処理する際の責任の明確化やリーダー業務に補佐役を付ける等の対策を講じ、業務の整理と改善を行った。
 - 非常勤の歯科衛生士を3名採用。これまで不足感があった口腔ケアが強化され、口腔衛生が向上したと歯科医師からも評価を得られた。また誤嚥性肺炎も低減されており、これに起因している可能性も強く感じている。
 - 前年度に導入された介護システム（ほのぼのNEXT等）の活用を推進し、体温計・血圧計の転記運動、諸記録を電子記録化していった。ほか、介護職員間の連絡ツールとして導入したインカムも利用が消極的で課題を感じていたが、研究発表のテーマとして掲げ取り組んでみたことで活用の場面を増やすことが出来た。
 - 介護ロボット補助金を活用し、排泄記録支援となるサニタリーシステムを年度末に入所のほぼ全居室のトイレに設置。導入から短期間ゆえ具体的効果はこれから明らかになってくるものの、現在までの評判は良好で今後の期待が高まる。
 - 職員の発想力・企画力を活かし育成する目的で、3年目となるアイデアコンペを本年も行い2企画の選定が行なわれた。
- <今後の展開>
- 介護保険法改正により生産性向上のための委員会が必要とされた。これまでノーリフトケアプロジェクトとして介護器具や技術の導入について取組んでいたが、今後はこの生産性向上の委員会に包括させ、機器・システム・業務・技術をテーマに協議して行きたい。

3. 職員状況（3月末現在）

- 2024年3月31日職員状況
医師1名、看護職員12名（内非常勤2名）、介護職員54名（内非常勤10名）、療法士9名（内非常勤3名）、管理栄養士2名、ケアマネジャー6名、歯科衛生士3名（内非常勤3名）、訪問介護員4名（内非常勤1名）、相談員4名、事務員7名（内非常勤3名）、運転手・介護助手10名（内非常勤10名） 《合計》112名（常勤80名、非常勤32名）
- 2023年度職員異動状況
採用：19名（介護12名（内法人内転入1名）、歯科衛生士3名、助手1名、運転手3名）
退職：16名（医師1名、看護3名、介護4名（内法人内転出1名）、相談1名、歯科衛生士1名、助手3名、運転手3名）

4. 研修参加・実施状況

- 内部研修：感染対策、身体拘束、KYT、褥瘡予防、不適切ケア、BCP、倫理研修等 合計 9回 延 646名参加
- 外部研修(法人内)：KMS内部監査員、ハラスメント、新人研修、役職者、職業倫理研修等 合計 20回 延 59名参加
- 外部研修(法人外)：認知症介護実践者、サービス提供責任者、高齢者虐待防止、腰痛対策等 合計 16回 延 25名参加

2023年度 事業報告

コミュニティホーム八雲

【入所：定員90名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>32,582 人</u>	<u>32,556 人</u>
一日平均入所者数	<u>89.0 人</u>	<u>89.0 人</u>
入所待機者	4 人（3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.7</u> （短期療養除く）	
協力医療機関	： <u>1. 八雲総合病院</u> <u>2. ヤクモ歯科クリニック</u>	

【通所リハビリテーション：定員55名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>8,017 人</u>	<u>7,122 人</u>
一日平均利用者数	<u>31.2 人</u>	<u>27.7 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.8</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問リハビリテーション】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>124 人</u>	<u>88 人</u>
一日平均利用者数	<u>0.5 人</u>	<u>0.4 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.7</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	<u>3,000 回</u>	<u>2,600 回</u>
(介護保険外)		<u>11 回</u>
一日平均利用回数 (介護保険)	<u>9.6 回</u>	<u>8.4 回</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.1</u> (要支援1・2を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1,140 件</u>	<u>1,155 件</u>
(うち介護予防)		<u>216 件</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 1.7</u> (要支援1・2を除く)	

2023年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム美唄・すまいる

1. 総括

●2023年度においては、3つの重点項目（1）安定的な財政基盤の確立（2）人財の確保と定着（3）地域社会への貢献を掲げ、取り組んで参りました。

（1）安定的な財政基盤の確立については、

目標利益率は達成しましたが、目標人件費率においては僅かながら達成には至らない結果となりました。また、収益目標につきましては全事業が達成には届かなく、乖離状態が続く結果となった事業もありました。

2024年度におきましては、各事業、全体での目標値の達成を図れるように事業を展開していきたいと思っております。

○入所

在宅復帰指標については、幾度か超強化型を算定し年間を通して強化型を維持していくことができました。

他施設への入所、入院、在宅復帰等、予想外の退所により空床の状態が続き、年度当初より厳しい結果となりました。

○短期療養

1年間を通して目標値以上の結果を残すことができました。

○通所リハビリ

年度当初より目標未達成が続き、改善することがなく厳しい結果となりました。

○訪問リハビリ

秋頃より実人数が1名減少となったが、年間を通して目標値を達成することができました。

○通所介護

担当者と連携をはかり振替利用を積極的に行っていたが、体調不良、長期入院、病院受診等により収益増加には結びつかず、年間を通して目標値には届かない結果となりました。

○居宅介護支援

1年間、目標値を超える数値で推移し目標値を達成できました。

○訪問介護

職員の退職等による人財不足により新規受入れの制限、訪問先である養護老人ホーム入所者のコロナウイルス陽性などにより訪問件数が伸びず、年間を通して厳しい結果となりました。

（2）人財の確保と定着については、

介護職員の慢性的な人財不足により求人を行ってききましたが、十分な人財確保には至っておらず厳しい状況のなか業務を遂行していた状態にありました。人財確保を行うため求人活動を継続していき、ICTを活用しながらの業務改善、外国籍人財の採用を検討していきます。また、心身の体調不良者の早期対応等を行い、離職を防ぐよう引き続き支援を行っていきます。

（3）地域社会への貢献については、

新型コロナウイルス感染が第5類へと移行となり、地域への活動参加機会が徐々に戻ってきましたが、休止していた活動再開までには至っていない状態にありました。今後においても積極的に活動への参加を行い、また状況に応じて活動再開も検討していきます。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

- ・施設運営会議：施設・在宅事業全体で経営改善にむけての検討。
- ・定例会議：各事業（入所、通所、訪問、居宅）において、経営改善や業務の効率化に必要な課題の明確化・検討。

<成果>

- ・利益率、人件費率等、目標値達成への進捗状況の確認を行い、経営改善に必要な課題が明確となりました。

<今後の展開>

- ・第5類に移行となりましたが、新型コロナウイルス感染等の対策を継続していきながら事業運営をしていきます。
- ・各事業で経営改善計画をたて、計画目標を達成するよう事業を継続していきます。

3. 職員状況（3月末現在）

2024年3月31日職員状況

（コミュニティホーム美唄）

医師	1名	看護職員	14名（非常勤 4名）
介護職員	49名（非常勤15名、派遣 1名）	管理栄養士	2名
相談職員	4名	事務・施設管理職員	9名（非常勤 2名）
理学療法士	7名	作業療法士	2名
清掃職員	5名（非常勤5名）	運転職員	7名（非常勤 7名）
合計	100名（非常勤33名、派遣 1名）		

（すまいる）

介護支援専門員	5名	訪問介護員	27名（非常勤22名）
看護職員	2名（非常勤 2名）	介護職員	5名
事務職員	5名（非常勤 1名）	運転職員	3名（非常勤 3名）
作業療法士	1名		
合計	48名（非常勤28名）		

2023年度職員採用・退職等状況

（コミュニティホーム美唄）

- ・採用：5名（介護職員 2名、理学療法士 1名、運転職員 2名）
- ・退職：8名（介護職員 5名、看護職員 1名、運転職員 2名）

（すまいる）

- ・採用：2名（訪問介護職員（非常勤））

4. 研修参加・実施状況

<全体>

- ・外部研修参加回数：32回
- ・内部研修参加回数：12回

（コミュニティホーム美唄）

- ・外部研修参加回数：22回

日医認定産業研修会、新型コロナウイルス感染症5類移行感染症研修会、腰痛予防研修会、新任役職者研修会、ハラスメント研修会、中間管理職スキルアップ研修会、危険物安全協会研修会、睡眠マネジメント研修、安全運転管理者講習、接遇アドバイザー養成研修会I、介護支援専門員受験対策講座、認知症介護実践者研修、職業倫理研修会、多職種合同研修会、ハラスメント研修会（カスタマー編）、管理職研修会、新入職員研修会、役職者研修会、幹部職員セミナー、介護福祉士実習指導者講習会、TENAオンライン勉強会、新人フォローアップ研修

- ・内部研修参加回数：12回

介護におけるコミュニケーション学習会、新入職員研修動画視聴学習会、不適切ケア学習会（宿題方式）、感染対策学習会、介護技術研修（ボディメカニクス）、認知症ケア研修、高齢者虐待防止・身体拘束（不適切ケア）、手洗い講習、介護職員に対する口腔形成の管理に関わる技術的助言及び指導、救急救命・AEDの使用法講習会、ユマニチュードケアについて、新型コロナウイルス机上訓練、事故防止（R5年度事故分析）研修

（すまいる）

- ・外部研修参加回数：10回

腰痛予防研修会、新任役職者研修会、ハラスメント研修会、説得・納得につなげるコミュニケーション力向上研修会、キャリアデザインのためのメンタルヘルス研修会、職業倫理研修会、評価研修会、働く女性の悩みと健康研修会、コミュニケーションスキル研修会、安全運転管理者講習

2023度 事業報告

コミュニティホーム美唄

【入所：定員80名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>28,735 人</u>	<u>27,466 人</u>
一日平均入所者数	<u>78.5 人</u>	<u>75.0 人</u>
入所待機者	<u>3 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.80</u> （短期療養除く）	
協力医療機関	： <u>1. 市立美唄病院</u> <u>2. 宝崎歯科分院</u>	

【通所リハビリテーション：定員65名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>12,584 人</u>	<u>11,729 人</u>
一日平均利用者数	<u>51.5 人</u>	<u>48.5 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.07</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問リハビリテーション】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>120 人</u>	<u>136 人</u>
一日平均利用者数	<u>0.3 人</u>	<u>0.9 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.0</u> （要支援1・2を除く）	

2023年度 事業報告

美唄市東地区生活支援センターすまいる

【通所介護：一般型30名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>5,528 人</u>	<u>5,200 人</u>
一日平均利用者数	<u>21.5 人</u>	<u>20.2 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.65</u> (総合事業を除く)	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	<u>15,619 人</u>	<u>13,927 人</u>
(介護保険外)		<u>3,265 人</u>
一日平均利用回数 (介護保険)	<u>50 人</u>	<u>45 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.76</u> (総合事業を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>2,376 件</u>	<u>2,510 件</u>
(うち介護予防)		<u>395 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.90</u> (総合事業を除く)	

【福祉入浴】(自主事業)

延利用者数 1,497 人

一日平均利用者数 10 人

【高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業(LSA)】(受託事業)

対応件数: 4,207 件

安否確認: 3,908 件 相談連絡: 228 件 健康異変: 24 件

ガス漏れ警報器: 2 件 非常呼出: 35 件 その他: 4 件)

2023年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム岩内

1. 総括

新型コロナウイルスが5類感染症に移行したが利用者・家族に大変迷惑・不便を掛けた1年であった。8月・1月と入所者、職員がコロナウイルス感染等もあり、老健入所を中心に目標達成に至らなかった。特に入所については新規受入れに時間を要し施設全体の経営にも大きな損害であった。老健施設として入所はもちろん、SS・通所リハ・訪問リハそして訪問看護も含め「在宅支援の機能」をしっかりと果たす施設運営を実施する必要があるといえる。そのためにも、コミュニティホーム岩内と岩内ふれ愛の郷の2つの施設が連帯感を持って一体経営強化を継続して実施していきたい。改めて新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症蔓延防止対策が課題といえる。

- 1) 10月より酒井施設長（法人理事）がご退任され回復期病院（宇都宮市）から竹内先生が着任。
- 2) 老健入所は、通年「加算型」を取得することはできたが、在宅支援施設の役割を果たすためには、加算型から在宅強化型として超強化型へステップアップできるシステム（人員も含め）を構築することが重要である。今後もプロジェクト会議・自立支援プロジェクト会議で協議検討していきたい。
- 3) 人員体制・配置基準の問題もあるが、各種加算算定についてはより計画的に算定できるよう調整していきたい。
- 4) 在宅事業部（特に訪問看護・訪問リハビリ）は、目標を達成することができなかったが、地域性もあり必要な事業であるため他事業所とも連携し経営的にも安定した運営に努めていきたい。
- 5) 介護ロボット（a a m s・インカム）の使用状況、導入効果について一定の評価を得ている。今後の課題も含め効率的に使用していきたい。
- 6) 喫緊の課題は、人材確保と人材育成である。2024年度は「技能実習生」5名採用予定。介護職員は当然であるが、看護職員やリハ職員等の専門職の確保が依然厳しい状況である。安定した職員の確保と年代別の職員育成、そして、働きやすい職場環境作りを推進していきたい。その一環として補助金を活用し「介護職員宿舎」を整備。2024年4月より職員入居。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

1. 「プロジェクト会議」を月1回開催。12月より現場職員中心に協議検討する「自立支援プロジェクト会議」を発足。課題等を情報共有することで透明性の保持や可視化することができている。
2. 「プロジェクト会議」ではコミ岩・ふれ愛の連携強化（特に利用者確保）について協議検討実施。

<成果>

- ・ 「プロジェクト会議」で在宅復帰阻害要因等の検証を行い、老健入所は、通年「加算型」を算定することができた。
- ・ ほとんど利用がなかった「短期入所療養介護サービス」を利用する方も現れ、また、通所リハビリ中心に在宅サービス利用者が定期的にコミ岩の入所サービス利用する方も増加した。
- ・ 一体経営に向けコミ岩・ふれ愛の職員異動が（介護以外にも看護師や事務員も）円滑に実施できた。
- ・ 加算算定状況や人件費率及び利益率に向けた目標数値の達成度確認等、全職員に周知が図れた。

<今後の課題>

- ・ 今後は稼働率向上も含め「加算型」から「在宅強化型」へ移行できるよう協議検討していく。
- ・ 長期にわたり人材不足が続いていることは喫緊に課題である。効果的な募集・離職防止対策等を推進していきたい。
- ・ 「L I F E」の円滑な運用は勿論であり積極的な加算取得を推進。
- ・ 感染症を含め、自然災害・介護事故におけるリスク管理体制の強化。ICT化により業務改善の強化

3. 職員状況（3月末現在）

○2024年3月31日職員状況 <入所・DC・包括・居宅・訪問看護>

医師2名（非1名）、療法士14名、栄養2名、看護25名（非・嘱・派11名）、相談4名、介護59名（非・嘱14名）、CM5名（非2名）、事務8名（非1名）、施設管理1名、運転8名（非8名）、介護補助16名（非16名）、リハ補助1名【合計：145名】

○2023年度職員採用・退職等状況（施設外転出者含む）

採用：22名【医師1名、介護10名、看護5名、相談1名、PT2名、ST1名、事務1名、運転1名】

退職：12名【介護7名、看護2名、相談2名、事務1名】

異動：1名【相談1名】、育児休業：3名、産前産後休業：1名、病欠：0名

4. 研修参加・実施状況

○外部研修参加状況（溪仁会グループ・キャリア支援主催研修含）参加者延77名

中堅管理者研修、接遇研修、終末期リハ研修、認知症初期集中支援研修、施設看護師専門研修、介護福祉士実務者研修、その他

○施設内研修開催回数12回

緊急時対応研修、ケアプラン研修、身体拘束廃止研修、事故防止研修、感染対策研修、事故対策研修、その他

○岩内コミュニティの丘合同研修開催回数14回

介護現場におけるリスクマネジメント研修、老健在宅強化型に向けて、オムツのあて方研修、その他

2023年度 事業報告

コミュニティホーム岩内

【入所：定員100名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>36,126</u> 人	<u>34,776</u> 人
一日平均入所者数	<u>98.7</u> 人	<u>95.0</u> 人
入所待機者	<u>3</u> 人（3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.43</u>	
協力医療機関	： <u>1. 岩内協会病院</u>	
	： <u>2. 済生会小樽病院</u>	
	： <u>3. 中村歯科医院</u>	

【通所リハビリテーション：定員50名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>10,379</u> 人	<u>9,630</u> 人
一日平均利用者数	<u>42.5</u> 人	<u>39.4</u> 人
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.30</u> （要支援1・2を含む）	

【訪問リハビリテーション】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>250</u> 人	<u>218</u> 人
一日平均利用者数	<u>1.0</u> 人	<u>0.9</u> 人
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.56</u> （要支援1・2を含む）	

【地域包括支援センター】

延相談件数： 187件

相談内容

介護サービスの利用：	<u>105</u> 件	代行申請：	<u>10</u> 件
入所を含む施設関連の相談：	<u>6</u> 件	生活支援：	<u>2</u> 件
高齢者虐待（疑い含む）：	<u>1</u> 件	認知症：	<u>14</u> 件
介護予防・リハビリ：	<u>3</u> 件	その他：	<u>46</u> 件

会議・事業の開催、参加等

	主 催	参 加
役場・包括連絡会議	<u>10</u> 回	<u>10</u> 回
センター会議	<u>12</u> 回	<u>12</u> 回
地域ケア会議（個別処遇会議）	<u>0</u> 回	<u>0</u> 回
自立支援型地域ケア会議（擬似会議）	<u>3</u> 回	<u>3</u> 回
虐待対応ケース会議	<u>0</u> 回	<u>4</u> 回
居宅・包括連絡会議	<u>3</u> 回	<u>3</u> 回
民生福祉委員協議会	<u>0</u> 回	<u>3</u> 回
運営推進会議（包括・その他）	<u>1</u> 回	<u>8</u> 回
都市計画策定委員会	<u>2</u> 回	<u>2</u> 回
高齢者保健福祉計画及び介護保険 事業計画策定委員会	<u>3</u> 回	<u>3</u> 回
はっらっ元気塾	<u>12</u> 回	<u>12</u> 回
介護予防教室	<u>7</u> 回	<u>7</u> 回
介護予防普及活動	<u>0</u> 回	<u>5</u> 回
認知症カフェ	<u>3</u> 回	<u>3</u> 回

新予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	委託プラン
要支援（予防給付）	<u>35</u> 件	<u>1232</u> 件	<u>3</u> 件
予防ケアマネジメント（総合事業）	入手数	直営プラン	委託プラン
	<u>22</u> 件	<u>763</u> 件	<u>0</u> 件

【訪問看護】

	目 標	実 績
延派遣回数	<u>5,002 回</u>	<u>4,552 回</u>
(うち介護保険外)	<u>732 回</u>	<u>901 回</u>
一日平均利用者数	<u>20.5 人</u>	<u>18.7 人</u>

要介護度状況 : 平均要介護度 1.10 (要支援1・2を含む)

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>408 件</u>	<u>382 件</u>
(うち介護予防)		<u>0 件</u>

要介護度状況 : 平均要介護度 1.88 (要支援1・2を除く)

2023年度 事業報告

施設名：青葉ハーティケアセンター

1. 総括

<通所介護>

2023年度は、5月にコロナが5類へ移行。数年に渡ったコロナ禍が一般的には明けた年であった。感染対策はこれまでの知見を活かしながら講じつつも、経営改善に向けて大きく舵を切った。更なる魅力向上の為、「カラオケルームのオープン」、「短時間利用の強化」、「AIによる身体機能、口腔機能の評価」を実施。2023年度後半にはAIの力を活用しながら、口腔機能向上加算の算定も開始出来た。

施設パンフレットの作成、事業所パンフレットの一新、法人ホームページのリニューアルなど、広報物が一新出来たことで広報活動に尽力しやすい環境を作ることが出来た。

新規利用者はコンスタントに獲得しながらも、目標の実利用者、平均利用者には届かなかった。2024年度の介護保険改正に備え、地盤を固める年となった。

<居宅介護支援>

3名体制で年度スタートをしたが9月に1名、12月に1名と退職者が続く。8月に法人本部より1名が着任するも、令和6年1月からは2名体制となり、ご利用者の11名を当法人の居宅介護支援事業所コミュニティホーム白石に協力いただき契約移行。同月より特定事業所加算の算定できない状況となり、当初予算からの大幅な乖離を生じることとなる。

札幌市内法人の居宅介護支援事業所のあり方について検討を重ね、2024年度より指定居宅介護支援事業所あおばと居宅介護支援事業所コミュニティホーム白石を統合し、ケアプランセンター溪仁会東として事業を展開することとなった。

<訪問看護>

2023年度新規利用者は、3.5名/月（看護2.4名、リハビリ1.1名）【前年：3.0名/月（看護2.2名、リハビリ0.8名）】と2022年度と比較すると増加したが、入院や施設入所などによる休止や終了が新規利用者目標を上回り、訪問件数が伸び悩む要因となった。

一方、2022年度に引き続き医療度の高いご利用者の相談も増え、小児の新規も2名と増えてきており、「医療度の高い利用者や小児にも対応出来る訪問看護ステーション」として依頼も多くなった。

2023年度は、精神科疾患のご利用者も増えてきており、訪問看護として今後も対応していけるよう、2024年度は、精神障害者の在宅セミナー（精神科訪問看護基本療養費の届出要件を満たす研修）に参加し、スキルアップを目指す。

個人で受けた研修に関しても、伝達講習をし、職員の知識や技術の平準化を図っていく。

2024年度は、更なる新規利用者の獲得を目指し、医療機関や居宅介護支援事業所との連携強化に努め、収益の安定とケアの質の向上を目指したい。

<小規模多機能>

2023年度の予算達成は、11月の一度のみ。年間平均登録者数は、27.7名と2022年度よりは0.4ポイント上回ったが、予算未達が続いた。宿泊者については、一定数確保ができてはいるが、連続宿泊者を無くしていくよう調整が必要。

2024年度は、ご利用者の要介護度の見直しや泊り利用を維持して、更なる安定した運営を目指す。生産性向上加算、認知症加算等新規加算についても取得できるものは積極的に算定していく。

<児童デイサービス>

2023年7月末をもって事業を閉鎖。ご利用者への影響を最小限にとどめながら他事業所への引継ぎを行うことができた。

(今後の展開)

2024年度においては、新規利用者の獲得に全力を挙げる。サービスの質向上、職場環境の改善、健康経営を意識した衛生管理体制強化に取り組む。また、ご利用者・ご家族への接遇はもちろん、来客者や職員同士の接遇強化にも取り組む。更新した介護保険ソフトについてもさらに積極的な活用を実施し、生産性の向上やペーパーレス等による経費削減にも取り組む。これらを総動員して「赤字体質からの脱却」を実現させたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○運営会議（毎月1回）：5事業所全体の経営改善にむけての検討（8月以降は4事業所）

参加者：センター長、各管理者（居宅、通所、小規模、訪問看護、経理）

○各部署経営改善プロジェクト（居宅、通所、小規模、訪問看護）：各事業所内での経営改善にむけての検討

○居宅会議（毎週1回）：業務の効率化、情報共有、サービスの質向上を目的として実施

参加者：介護支援専門員全職員

○地域活動への参画（青葉地区介護予防健康フェアへ看護師、理学療法士、社会福祉士等の派遣）

<成果>

○各事業所間で連携をはかり、利用者数の獲得につなげることができた。（小規模多機能へ居宅から紹介など）

○各事業所間での情報共有をおこなうことにより、経営上必要な課題点が明確になってきた。

- 情報共有をおこなうことにより、お客様や各事業所担当者に対する早期対応、また業務の効率化をはかっていくことができた。
- 老健コミ白との往復利用により、ご利用者のADLが維持され、かつコミ白の超強化型加算の算定にも寄与できた。(小規模)
- 歩行機能及び口腔機能評価ツール「トルト」導入により、ご利用者・家族、ケアマネへの情報提供の質が格段に向上した。
<今後の展開>
- 新規利用者の獲得、既存利用者の確保、コスト意識をしていきながら、極力少ない費用と人員で収益を確保できるよう努めていく。

3. 職員状況 (3月末現在)

○2024年3月31日職員状況

- ・生活相談員： 2名
- ・介護支援専門員： 1名
- ・看護職員： 11名 (内非常勤職員 4名)
- ・理学療法士： 3名
- ・作業療法士： 2名 (内非常勤職員 1名)
- ・介護職員： 22名 (内非常勤職員 8名)
- ・事務職員： 3名
- ・運転職員： 2名 (内非常勤職員 2名)
- ・合計： 46名 (内非常勤職員15名)

○2023年度職員異動状況 (出向者含む)

- ・採用：3名 (介護職員0名、看護職員2名、作業療法士1名)
- ・退職：7名 (介護職員0名、看護職員0名、作業療法士3名、理学療法士1名、介護支援専門員2名、運転職員1名)

4. 研修参加・実施状況

○通所介護

接遇アドバイザー養成研修会(社福)1名、新任役職者研修(溪仁会)1名、5類移行シンポジウム 何が変わる、何が変わらない在宅ケアのCOVID-19対応(YOUTUBE)6名、感染症対策6名、高齢者虐待防止6名、BCP(感染症)6名、BCP(災害)1名

○訪問看護 (各1名)

多職種連携について、小児のスキントラブルについて、訪問看護の現状について、令和5年度札幌市医療ケア児等支援者養成研修、ACPの基本を学ぶ、小児訪問看護研修プログラム説明会、在宅看護における床ずれ対策WEBセミナー、役職者のためのファミリーセッションスキル研修会、新人職員フォローアップ研修会、令和5年度若年性認知症を理解するための介護従事者研修、現場に生かす心理・安全性 新たな自律神経の理論もふまえて、北海道における血液疾患患者の在宅生活と医療を考える会「第1回・第2回嚥下障害患者への新たなアプローチ」、在宅緩和ケアオンライン研修会「呼吸困難の緩和ケア」、フットケアWEBセミナー「陥入爪・白癬を含むフットケア」、地域で支えるパーキンソン病治療を考える会「よくわかるパーキンソン病」、訪問看護師養成フォローアップ研修「緩和・看取りケア」、訪問看護師養成フォローアップ研修「スキンケア・ストマケア・フットケア」

○居宅介護支援事業所

厚別区地域包括支援センター研修「日常生活自立支援事業」1名、「高齢者虐待予防」3名、「個別事例検討」3名、「認知症疾患サポートセンター」1名、ケアマネ資質向上研修「法改正～介護支援専門員の役割」1名、「心不全緩和ケア研修会」1名、北海道主任介護支援専門員更新研修2名、厚別区支部定例研修会1名、厚別区地域包括ケア連絡会「オンライン確認システム」1名、「退院時支援」2名、「診療報酬改定」1名、中央区在宅ケア連絡会「退院カンファレンス」2名、他法人共同事例検討会(重仁会1回)、ハラスメント防止研修会(法人)BCP、さくらば(感染症予防)、居宅学習会(認知症～疾患医療センター)、居宅事例検討(2回)

○小規模多機能

接遇研修会6名、感染症研修6名、個人情報保護研修6名、認知症ケア(サクラボ)6名、ハラスメント防止研修6名、虐待防止研修6名

○経営管理課 (各1名)

介護ICTとケアプランデータ連携システム、メンタルヘルス研修会、コミュニケーション向上研修会、ヘルスケア研修会、介護報酬改定セミナー、溪仁会グループ職員合同研修会、溪仁会グループ幹部職員セミナー

2023年度 事業報告

青葉ハーティケアセンター

【通所介護：一般型40名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	<u>8,495 人</u>	<u>7,689 人</u>
一日平均利用者数（一般型）	<u>27.5 人</u>	<u>24.9 人</u>

要介護度状況 一般型 : 平均要介護度 1.52 (要支援1・2を除く)

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1,405 件</u>	<u>1,087 件</u>
（うち介護予防）		<u>188 件</u>

要介護度状況 : 1.82 (要支援1・2を除く)

【訪問看護】

	目 標	実 績
延派遣回数	<u>7,628 回</u>	<u>6,043 回</u>
（うち介護保険外）	<u>1,969 回</u>	<u>1,849 回</u>
一日平均利用者数	<u>28.4 人</u>	<u>24.7 人</u>

要介護度状況 : 平均要介護度 2.3 (要支援1・2を除く)

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員29名（通い定員18名、宿泊7名）】

	目 標	実 績
延登録者数	<u>10,435 人</u>	<u>10,142 人</u>
※延通い利用者数		<u>4,565 人</u>
※延宿泊数		<u>1,710 人</u>
※延訪問数		<u>4,069 人</u>
一日平均登録者数	<u>28.5 人</u>	<u>27.7 人</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>2.1</u> （要支援1・2を除く）	

【児童デイサービス：通所10名、居宅保育所等訪問0.1名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>464 人</u>	<u>569 人</u>
※延べ通所利用者数	<u>464 人</u>	<u>569 人</u>
※延べ訪問利用者数	<u>0 人</u>	<u>0 人</u>

2023年度 事業報告

施設名：円山ハーディケアセンター

1. 総括

<通所介護>

2023年度は年間を通して安定した事業運営ができた1年となった。ご利用者の皆様も新型コロナウイルスが5類に移行した事でサービス利用に前向きになられたのか、体験利用・新規利用ともに前年度を大きく上回る結果となった。(体験利用：月平均10.0名から12.3名、新規利用：月平均5.2名から7.2名)ご利用者が再開を待ち望まれていた室内行事や外出行事も再開している。

<居宅介護支援>

2023年度は、常勤職員3名、(兼任1名)4名体制でスタートし、5月には職員の異動や入職がありましたが、順調に利用者数が増加し安定していた。2024年度の居宅の統合を控え新規の受入れを休止した時期があったが月平均4.6名の新規実績となっている。

<今後の展開>

通所介護については、地域への広報活動に注力し、一般の方やケアマネの方に施設の存在を広く知って頂く。コロナ禍で休止していた近隣の専門学校との交流や実習生の受入れを再開し地域交流活動を強化していきたい。引き続きセラピスト2名配置を継続し幅広いリハビリのニーズに対応できる通所介護である事を発信していく。

居宅介護支援については、統合後、連携の関係を継続し、働きやすい環境の整備に努めると共に、大規模化のモデル構築に協力していきたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○円山HCC運営会議(毎月1回):経営課題の検討、事業方針や方向性の検討。

参加者:センター長、各事業所役職者

○通所介護運営会議(毎月1回):感染対策、業務の効率化、経営改善にむけて検討

参加者:管理者、役職者、看護職員

○居宅介護支援事業所会議(毎週1回):業務の効率化、情報共有、サービスの質向上を目的として実施。

参加者:介護支援専門員全職員

<成果>

○新型コロナウイルスの感染対策として看護職員とも連携し業務上でのリスクの洗い出し、対策の強化を図ることができた。

○情報共有をおこなうことにより、ご利用者や各事業所担当者に対する早期対応、また、業務の効率化を図っていくことができた。

<次年度にむけて>

○職員定着を強化する為、心理的安全性の確保を意識してハラスメントの根絶や労働環境の整備について検討。施設の健康課題について検討。

○通所介護は、集客に向けてしっかりと営業・広報活動を行うと共にリハビリニーズへの対応や接遇の強化を行う。

○介護ソフトの入替、タブレットの導入による業務効率の客観的な評価を行う。

○ICT化に積極的に取り組み、業務体制の見直しと効率化、定着化を図る。

3. 職員状況(3月末現在)

○2024年3月31日職員状況

・管理者: 2名(通所介護、居宅介護支援)	・生活相談員: 2名(通所介護)
・介護支援専門員: 5名(居宅介護支援)	・看護職員: 4名(非常勤 2名)
・言語聴覚士: 1名	・作業療法士: 1名(非常勤 1名)
・介護職員: 20名(非常勤 9名)	・事務職員: 1名
・運転職員: 4名(非常勤 4名)	・清掃職員: 1名(非常勤 1名)
・合計: 39名(非常勤 17名)	

○2023年度採用・退職者状況(出向者含む)

・採用: 9名(介護職員5名、運転その他職員4名)

・退職: 9名(介護職員4名、運転その他職員5名)

4. 研修参加・実施状況

○外部研修: カスタマーハラスメント対応研修、雇用管理者研修、採用力向上研修、神経内科勉強会、人財定着オンライン研修、ケア連事例研修、若年性認知症研修、BCP研修、ICT導入・普及促進セミナー、中央区在宅ケア連絡会、ラインワークス研修、制度改正研修、認知症実践者研修 他多数

○内部研修: 【居宅】(合同)事例検討会、コンプライアンス研修、調整力研修、評価者研修、(役職者)ハラスメント研修等

【通所介護】感染防止内部研修、コミュニケーションスキル研修会、キャリアデザイン研修、虐待研修等

2023年度 事業報告

円山ハーティケアセンター

【通所介護：一般型80名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	<u>16,904 人</u>	<u>16,997 人</u>
一日平均利用者数（一般型）	<u>54.3 人</u>	<u>54.7 人</u>
要介護度状況 一般型	： <u>平均要介護度 1.91</u> （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1,500 件</u>	<u>1,611 件</u>
（うち介護予防）	<u>180 件</u>	<u>209 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.89</u> （要支援1・2を除く）	

2023年度 事業報告

法人本部

1. 各部・課の活動状況

●経営管理部

【財務課】

- ・理事会（6月・7月・10月・1月・3月）、評議員会（6月）の開催
- ・経営管理会議の開催（毎月開催）
- ・各種補助金の請求等の支援
- ・定款変更等行政に対する認可申請事務（7月）
- ・経理規程の改正
- ・決算・予算及び各月次確定財務諸表作成事務
- ・財務諸表等電子開示システム活用による行政等への申請（6月）
- ・各種会議への参加、他
- ・改正社会福祉法に関する会計監査人による会計監査の実施（期末5月、中間12月・1月）
- ・監事監査の実施（6月・7月・10月・1月・3月）

【情報システム課】

- ・DX推進
- ・介護システム更新
- ・セキュリティ対策として外部メールのパスワードの一斉変更を実施（全施設）

【購買担当】

- ・設備不具合の都度施設訪問等により支援、対応（喜茂別地中熱、美唄床暖房等）

●総務人事部

- ・人事検討会議の開催（10回開催）
- ・人事評価制度の定着と活用の推進
- ・法人広報による魅力発信
- ・キャリア向上のための資格取得支援
- ・障害者雇用の推進と理解の浸透
- ・技能実習生・特定技能・留学生・在留資格介護の外国籍人財の受入支援
- ・人事総務内部監査の実施（敬樹園、西円山の丘、菊水、カームヒル）

【総務担当】【総務課】

- ・処遇改善計画書等の申請等の支援
- ・受託業務の申出・契約・請求等の支援
- ・キャリアアップ助成金の申請等の支援
- ・就業規則、給与規程等の改正
- ・職員の定数管理
- ・時間外勤務状況の管理
- ・年次有給休暇取得状況の管理

【キャリア支援担当】【キャリア支援課】

- ・研修会・受験対策講座の開催

法人本部主催のテーマ別研修会	(7回：参加者	延	193名)
接遇アドバイザー研修会および接遇評価報告	(3回：参加者	延	57名)
新入職員研修会	(3回：参加者	延	110名)
新入職員フォローアップ研修会	(3回：参加者	延	33名)
中堅管理職講座	(5回：参加者	延	57名)
ミドル層職員・シニア層職員研修会	(2回：参加者	延	24名)
管理職研修会	(1回：参加者		45名)
役職者研修会	(1回：参加者		33名)

受験対策講座

○介護支援専門員受験対策講座	(2回：参加者 延 16名)
○介護福祉士受験対策講座	(5回：参加者 延 23名)
★合計	(32回：参加者 延 591名) (前年比46名減少)
内オンライン(テレビ会議・Zoom)による参加	(延 218名)

・ストレスチェック受検支援：受検率83.7%

●事業推進部

- ・居宅介護支援事業所の統合支援
- ・老健上位類型取得・維持支援
- ・稼働率向上のためのアクションプラン作成支援
- ・次期介護報酬改定に向けた情報収集
- ・各加算の申請状況、取得状況の管理
- ・科学的介護の推進支援(LIFE関連加算の算定状況管理とフィードバック情報の活用状況の確認)
- ・介護ロボットの補助金申請、導入支援
- ・ICT化の進捗状況の管理(介護記録の電子化、センサー、インカムの導入状況)
- ・ICT化による業務改善の推進支援(各書式の統一化)
- ・特養待機者の管理・共有
- ・特養、老健における入院理由、退所理由の管理・分析
- ・看護管理者会議の企画・開催(3回/年)
- ・相談職責任者会議の企画・開催(6回/年)
- ・通所介護管理者会議の企画・開催(2回/年)
- ・小規模多機能居宅介護管理者会議の企画・開催(1回/年)
- ・職種連携会議の企画・開催(6回/年)
- ・事業間職員交流の企画・実施(小規模多機能型居宅介護)
- ・多職種合同研修会の企画・開催(認知症ケア)

【リハビリ担当】【リハビリ課】

- ・法人リハ代表者会議(11月)
- ・リハビリ課定例会議(12回/年)
- ・溪仁会グループリハ責任者会議(毎月)
- ・溪仁会グループリハ研修委員会(隔月)委員2名
- ・老健リハ会議(6・12月)
- ・特養リハ会議(6・12月)
- ・訪問系リハ会議(8月・2月)
- ・通所介護リハ会議(7月・1月)
- ・ST合同会議(6・12月)
- ・職員の各施設への訪問：コミ美唄への訪問を実施(毎月)
- ・養成校の就職説明会(オンライン・情報提供・リクルート用動画の活用等)参加
- ・養成校への求人、職能団体への募集広告活動実施、リクルート用動画を施設のホームページに掲載し活用中
- ・高校生向けの修学資金貸付制度は該当者なし
- ・溪仁会グループ新人職員病院施設合同説明会(5月)
- ・溪仁会グループ合同研修会(オンライン)、社福リハ職38名参加(11月)
- ・溪仁会グループリハ交流研修は、今年度は中止
- ・社)溪仁会多職種合同研修会(ハイブリッド)「認知症ケア」105名参加(11月)
- ・コミ白石リハ研究発表会(3月に2日間・計16演題)
- ・施設間の異動や人員の調整(異動者なし)
- ・言語聴覚士派遣(2回/週～1回/月)：敬樹園、月寒、手稲、きもべつ、るすつ、コミ美唄
- ・作業療法士派遣(1回/月)：きもべつ、るすつ
- ・生活機能向上連携加算/毎月

特養：敬樹園、月寒、手稲、菊水、きもべつ、るすつ

D S：円山、手稲つむぎ、手稲織彩、月寒

各連携セラピストが対面・遠隔により実施

- ・喜茂別町地域支援事業の支援（適宜）
- ・S T合同会議から、M A S A、M M A S A（嚥下障害アセスメント）の運用継続
- ・研究発表（溪仁会グループ研究発表会：4演題）
- ・法人リハ職の新人研修プログラム（オンライン／対面）を実施：対象職員既卒者2名、約30コマ実施
- ・各施設リハ部門の内部研修の水平展開
- ・毎月の現況報告による各施設・事業所のリハ職の常勤換算数と情報収集
- ・リハ関連加算、LIFE関連取得の推進
- ・訪問系リハ事業の拡大
- ・実習受入施設の拡大と臨床実習指導者講習会に参加（4名）
- ・地域での他職種向け研修会、介護予防教室、地域ケア個別会議、地域ケア推進会議等への派遣

【栄養管理課】

- ・エア・ウォーター・タイヘイクッキングデポ見学（札幌市内管理栄養士）（4月）
- ・栄養管理者会議（5月集合）
- ・エア・ウォーター・タイヘイ試食会後の質疑応答（6月）
- ・地域イベント要請にて参加（7月）西円山敬樹園・コミュニティホーム白石
- ・ケアフード札幌参加（7月）
- ・各施設嚥下調整食対応表作成（8月）
- ・新型コロナウイルス感染対策報告書作成（8月）
- ・多職種合同研修会（9月）
- ・グループ病院（手稲・溪仁会リハビリ・定山溪）厨房見学（10月）
- ・委託業者・日清医療食品との新システムの情報共有（11月）
- ・多職種での食事ケアへの取り組み情報収集
- ・本部広報活動への行事食写真の提供（4月～12月）
- ・新給食システムについての学習（11月）
- ・栄養管理者会議（11月集合）
- ・給食業務分担調査（1月）
- ・低栄養状態の追跡調査（3月）
- ・サツドラとのイベントで社会貢献（2月）カームヒル西円山
- ・新年度給食システム変更の説明及び試食会（2月）シン食事サービス導入検討会（3月）*委託先日清医療食品
- ・委託業者契約内容の相談（栄養業務面）
- ・施設栄養士へのサポート（相談窓口）
- ・介護報酬の栄養関連加算取得の把握（各施設からの月報取り纏め）
- ・購買評価により給食委託業者の評価を共有化
- ・利用者満足度向上の為にアンケート調査の実施及び結果の横展開
- ・施設入所者の低栄養状態リスク者の把握
- ・栄養補助食品の統一購入による価格調整
- ・スキルアップの為に研修情報提供

【介護課】

- ・介護職員の採用活動支援（養成校との連携、実習生の受け入れ強化）
- ・介護人財定着支援
- ・介護職員の施設間交流・報告会の企画・実施
- ・介護リーダー職研修の企画・実施
- ・介護責任者会議の企画・開催（6回/年）
- ・ICT化による介護現場の生産性向上推進
- ・介護職の専門性を確立するための取組支援
- ・新入介護職員研修の企画・実施

- ・介護職キャリアラダーの作成、運用支援
- ・認知症実践リーダー研修の受講状況の管理
- ・認知症ケアリーダー育成に向けたプログラム検討
- ・介護関連加算の取得状況の管理
- ・人員不足施設に対する職員応援派遣支援

●業務管理部

- ・監督官庁運営指導（監査）立会い（11事業所）
- ・事業所事故報告確認（監督官庁報告165件）、年2回（上半期・年間）集計結果を報告・水平展開
- ・KMS推進支援（KMS会議参加・KMS内部監査対応・ISO維持更新審査対応）
- ・研修支援（ハラスメント防止研修会2回）
- ・苦情対応に関する個別支援（対応相談、顧問弁護士仲介）
- ・職員のコンプライアンス相談に関する個別支援（対応相談）
- ・事業所苦情・要望確認（年間46件）、年2回（上半期・年間）集計結果を報告・水平展開
- ・第三者委員との情報交換（四半期ごとに報告）
- ・法令遵守に関する支援（運営基準見直しへの対応：内部監査訪問、自己点検結果提出依頼）
- ・ハラスメント根絶に関する取り組み（第3回パワハラ実態把握調査）
- ・新型コロナウイルス感染症に関する事項（マニュアル更新、感染情報収集、グループ事務局への感染状況報告）
- ・感染対応支援チームの活動（2拠点の感染初動対応訪問確認）
- ・介護保険サービスの事業所評価（自己評価）実施、評価結果を報告・水平展開